

八事は、名古屋市内でも

古くから閑静な住宅街が広がる地域。ここに昭和63年に開院したのが「表山クリニック」。魚住義明院長が内科、消化器科を担当、魚住君枝子副院長が小児科とアレルギー科を担当している。そして、二スの高さに応える形で、開院後少し遅れて設置された心療内科は、2人が診療を担当している。

表山クリニック 名古屋市天白区



穏やかな笑顔と語り口調の院長と副院長

つながる“安心感大切に”

患者の負担回避 院内処方もポリシー

心に原因があり身体症状が発現、それを治療するのが心療内科だが、昨今の社会情勢を反映してか、患者も多い。心療内科の設置が少し遅かったこともあり、

内科・小児科クリニックとして地域に認知されていることが、よい意味で患者に少い遅かったこともあり、

「電話がいつでもつながる」と「院内処方」が置いているが、これがなかなか楽しく読める。

ことが、よい意味で患者に少い遅かったこともあり、

「電話がいつでもつながる」と「院内処方」が置いているが、これがなかなか楽しく読める。

また、副院長自身が発起人となって、NPO法人「ゆうこうの家」を運営、発達障害等こころの問題を持つ子どもたちの社会生活を支援するための活動にも力を注いでいる。

ことが、よい意味で患者に少い遅かったこともあり、

また、副院長自身が発起人となって、NPO法人「ゆうこうの家」を運営、発達障害等こころの問題を

また、副院長自身が発起人となって、NPO法人「ゆうこうの家」を運営、発達障害等こころの問題を

ことが、よい意味で患者に少い遅かったこともあり、

また、副院長自身が発起人となって、NPO法人「ゆうこうの家」を運営、発達障害等こころの問題を

また、副院長自身が発起人となって、NPO法人「ゆうこうの家」を運営、発達障害等こころの問題を

ことが、よい意味で患者に少い遅かったこともあり、

また、副院長自身が発起人となって、NPO法人「ゆうこうの家」を運営、発達障害等こころの問題を

また、副院長自身が発起人となって、NPO法人「ゆうこうの家」を運営、発達障害等こころの問題を

ことが、よい意味で患者に少い遅かったこともあり、

また、副院長自身が発起人となって、NPO法人「ゆうこうの家」を運営、発達障害等こころの問題を

また、副院長自身が発起人となって、NPO法人「ゆうこうの家」を運営、発達障害等こころの問題を

町の医療機関

がちな一親に連れられてくる病児ではない兄弟が疎外感を感じないよう話しかけたり、ちょっとしたオモ



表山クリニック外観

●表山クリニック 名古屋

市天白区表山1丁目1-7
60-0522(835)0

281

院長 昭和41年弘前大学医学部卒業、上動中津川市民病院、の勤務を経て昭和63年4月、表山クリニックを開院

略歴

副院長 昭和44年卒業、弘前大学医学部、赤動病院、東海病院等を経て昭和63年表山クリニックを開院